

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈2月20日（金）放送分〉

テーマ「おすすめの本③」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、「おすすめの本」シリーズの第3回目です。今回は、鹿児島県立図書館が発行している「鹿児島の高校生が^{すす}薦める本」、「にじいろの本」から4冊紹介します。

「鹿児島の高校生が薦める本」は、県内の高校生が他の人にも読んでほしいと思ったおもしろい本を紹介したリストです。また、「にじいろの本」は、県立図書館の職員が、七つの年代別に大人になるまでにぜひ読んでほしいと推薦する本を紹介するリストです。

まず、「鹿児島の高校生が薦める本」から紹介します。

最初の1冊目は、^{かまたひろし}鎌田 洋 さんの『ディズニーサービスの神様が教えてくれたこと』です。日本でいちばん^{こきやく}顧客満足度が高いと言われる東京ディズニーランド。この本は東京ディズニーランドの初代ナイトカストーディアル（夜間の清掃部門）・スーパーバイザーとして、ディズニーのクオリティサービスを実践し、その後、ディズニー・ユニバーシティ（教育部門）にて全スタッフの育成指導に^{たずさ}携わった著者の体験を元にした「おもてなし」にまつわる不思議な4つの物語で構成されています。第1話の「オレンジ色のラブレター」では、ディズニーランドに勤めて1か月の女性キャスト（従業員）が、ある重大なミスをしてしまいます。といっても、通常の仕事であれば「ミス」と言われなほどの^{ささい}些細な失敗。けれども、夢の国ディズニーランドでは、見逃すことのできないミスとなります。彼女は、幼い頃に事故で両親を失い、祖父母に育てられます。祖母も亡くなり、今は祖父と二人で生活しています。近頃は祖父のことを口うるさく感じ、ぎくしゃくした関係となっていました。そんな女性キャストは、ディズニーランドでの自分の失敗を認めようとしませんでした。後日、ゲスト（お客様）としてディズニーランドを祖父と訪れたことをきっかけに自分の失敗を反省し、成長していく様子が描かれています。ディズニーランドスタッフの一つ一つの行動や判断、工夫、おもてなしの心が描かれており、読んだ人の心も動かされる一冊です。

次に紹介する本は、^{おにつかただし}鬼塚 忠 さんの『カルテット』です。父親のリストラをきっかけに、ばらばらになっていく家庭。そんな時、長男の開は、ピアノの上に置かれた1枚の写真を目にします。それは10年前の夏に祖母の家で撮った写真。父親の直樹はピアノ、母親のひろみはチェロ、姉の美咲はリコーダーを演奏し、そして祖母の膝に開がちょこんと乗っている写真でした。この時、家族はとても幸せでした。開は、この時の幸せな家庭を取り戻すために家族で演奏会をすることを提案します。家族四人でカルテットをすることを。開が提案したそれぞれの担当の楽器は、父親はピアノ、母親はチェロ、姉の美咲はフルートを、そして開はバイオリン。しかし、家族での練習はなかなか思うように進みません。そんな中、開のバイオリンの腕前がプロの演奏家の目にとまることとなります。

しかもその演奏家のコンサートでバイオリンを弾くことに。しかし、その日は家族でコンサートを開く日でした。葛藤^{かつとう}を繰り返しながらも、家族の心を繋いだ奇跡^{きせき}のハーモニーに、家族の大切さを改めて感じる一冊です。

3冊目の本は、群^{むれ}ようこさんの『しっぽちゃん』です。猫、犬、セキセイインコ、ハムスター、ヤモリなどしっぽを持つ生き物との日常を描いた短編小説集です。10の短編が収められています。その中の一つが「ネコのトラタロウくん」。33歳の独身OLのサエコは、ある日同僚のユカと仕事のことで衝突^{しょうとつ}してしまいます。むしゃくしゃした気持ちのまま家に帰ると、住んでいるマンションの植え込みで小さな仔猫を見つけ飼うことになります。そして、虎柄^{とらがら}をしている仔猫に「トラタロウ」と名付けることにします。トラタロウを飼い始めてからサエコの会社や同僚に対する気持ちが徐々に変化していきます。

しっぽのある生き物との触れ合いを通して、登場人物の心の変化していく様子が描かれている短編集。笑いあり涙ありの心が癒^{いや}される1冊です。

4冊目は、「にじいろの本」に紹介されている山下明生^{やましたはるお}さんの「ケンムン・ケンとあそんだ海」です。ハルカは小学3年生の女の子。「アマミには、ケンムンっていうおばけがいるんだってよ。」とママはおどかします。でも、ハルカは、フーフッシュ（ひいおじいさん）がいる奄美大島へ一人で行くことを決めます。フーフッシュの家へむかうバスの中で、ハルカは、手足の長い、ひょろりとした男の子を見かけますが、いつのまにかいなくなってしまう。フーフッシュが言うには、ケンムン・ケンだということです。そんなある日、たいくつしていたハルカは、一人で海に出かけます。アカゴ岩^{ひとやす}にこしかけて一休みをしていると、突然金ハブが現れ、ハルカにおそいかかろうとします。その時、見知らぬ男の子が、小石をビュンビュン投げて金ハブから助けてくれます。しかし、いつの間にか男の子はいなくなっていました。あくる日、ハルカは、ヤツデマル（たこ）にすいつかれ困っている男の子を見かけます。そして、助けてあげようと思いますが、はいていたサンダルがぬげてしまい、それを追いかけてようとして海でおぼれてしまいます。そんなハルカをまたしても男の子が助けてくれます。そして、男の子がケンムン・ケンと知ることになります。その後、ケンムン・ケンとフーフッシュとの意外な関係を知ります。ところどころに出てくる奄美の方言や美しい自然が生き生きと描かれている作品です。

「鹿児島の高校生が薦める本」と「にじいろの本」のリストは、県立図書館のホームページで御覧になれます。県立奄美図書館では、「鹿児島の高校生が薦める本」、「にじいろの本」で紹介されている本は全て貸し出しをしています。ぜひ、この機会に読んでみられてはいかがでしょうか。

職員一同、皆様のご来館を心からお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。